

植物標本のタネは地域の自然を救う！？

時を越えて発芽する 植物標本のタネ

平成29年4月28日(金)～平成29年5月28日(日)

博物館の標本庫には100年以上前のものから現在のものまで、絶滅が危惧されている植物を含む数多くの植物の標本が収められています。標本にはタネ(種子)が残されているものも数多くあり、その中には休眠状態で今も生きているタネがあることが分かってきました。もしかしたら、これらのタネを集めて蒔くことによって、ある地域で絶滅してしまった植物や、減少してしまった遺伝的多様性を回復させることができるかもしれません。

この展示では、新潟大学教育学部の志賀研究室と大阪市立自然史博物館との共同研究から生まれた、標本を用いた植物の保全に関する最新の研究成果をご紹介します。

生きている標本のタネ

標本庫に眠る標本のタネは生きているものが多く含まれることが分かってきました。どんな種類のタネがどのくらい長く生きているのでしょうか？

最新の研究成果を紹介します。



標本のタネから発芽した
ホシクサ



タネの生存が確認された
最も古いヒメヒゴタイの標本(大阪府産1925年採集)
ヒメヒゴタイは大阪府では既に絶滅

絶滅危惧種の標本の

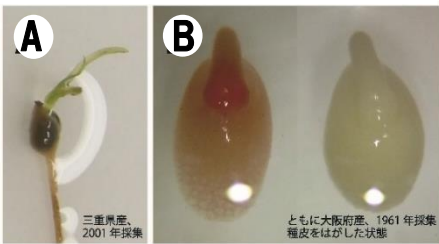
タネも生きている！

大阪では絶滅したと考えられているカワツルモの古い標本のタネも生きていることが確認されました。保管されている標本から絶滅した地域個体群の再生が可能となるかもしれません。

タネを用いた植物の保全

特定の種類の植物が失われてしまった場合に備えて、希少種や農作物の品種を中心にタネを保存する取り組みが世界各地で行われています。展示ではこのような事業や最近の研究例を紹介します。

カワツルモの生きていたタネ



(A)発芽したカワツルモの標本のタネ

(B)発芽しなかったけれど生存が確認されたタネ(左)と、死亡したタネ(右)

志賀 隆, 2013, 日本生態学会誌 63: 375 - 383 の図を許可を得て改変



兵庫県立人と自然の博物館のシードバンク事業
橋本佳延氏(兵庫県立人と自然の博物館)提供



スズサイコ
中浜直之氏(東京大学)提供

植物標本の作り方

植物標本をつくるなんていうと、ちょっと難しく感じるかもしれませんが、コツを覚えれば簡単にきれいな押し葉標本を作ることができます。展示では植物標本の作り方についてやさしく解説します。

ギャラリートーク開催

5月20日(土) 14時～15時 **申込不要**

講師：新潟大学教育学部自然情報講座
志賀 隆准教授

会場：新潟大学旭町学術資料展示館

新潟市中央区旭町通2番町746 TEL:025-227-2260

開館時間10:00～16:30 休館日：月・火曜日

入館無料